

八洲学園高等学校 特別活動計画

1. 特別活動の重点目標

特別活動の各活動及び学校行事を見通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主性、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方、生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。また、社会への適応力を身につけ、生きる力を育む。

- (1) 活動において、人間・自然に深い愛情を持ち、共に生きるためのコミュニケーション能力や環境意識を身につける。
- (2) 活動において、規律ある生活態度と自己責任能力を身に付け、地域の活性化をはかる諸活動に自主的に参加する取り組みをすすめる。
- (3) 学校行事・全体行事において、豊かな感性と想像力を持って、たくましく生きる力を育成する。

2. 活動区分（ホームルーム活動・学校行事・その他）

(1)

活動区分	全体行事	集団活動
活動内容	<p>(1) 儀式的行事 学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること。</p> <p>(2) 文化的行事 平素の学習活動の成果を発表し、自己の向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするようにすること。</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</p> <p>(4) 旅行・集団宿泊的行事 平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。</p> <p>(5) 勤労生産・奉仕的行事 勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、就業体験活動などの勤労観・職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験が得られるようにするとともに、共に助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。</p>	<p>(1) 学校の生活づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学校における生活上の諸問題の解決 ②キャンパス内の組織づくりと自主的な活動 ③学校における多様な集団の生活の向上 <p>(2) 適応と成長及び健康安全</p> <ol style="list-style-type: none"> ①青年期の悩みや課題とその解決 ②自己及び他者の個性の理解と尊重 ③社会生活における役割の自覚と自己責任 ④男女相互の理解と協力 ⑤ボランティア活動の意義の理解と参画 ⑥国際理解と国際交流 ⑦心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立 ⑧生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立 <p>(3) 学業と進路</p> <ol style="list-style-type: none"> ①学ぶことと働くことの意義の理解 ②主体的な学習態度の確立 ③教科・科目の適切な選択 ④進路適性の理解と進路情報の活用 ⑤望ましい勤労観・職業観の確立 ⑥主体的な進路の選択決定と将来設計

(2) 個人活動

様々な事情や特性を持った生徒がいることを理解し、個々の状況に応じた指導内容を留意する。また、個人の性格、特性を把握し、適切な活動を選択できる機会を設ける。個々の成長や課題に目を向け、集団活動への参画や、学校への登校につなげていける活動を構築する。

- ①芸術・文化鑑賞
- ②自己及び他者の個性の理解と尊重
- ③体験・観察・記録活動
- ④集団活動へ参加するための個別指導

3. 活動計画

1年次	2年次	3年次
入学式	-	-
新入生ガイダンス	始業式	始業式
親睦会	親睦会	親睦会
情報モラル 人権 LHR	情報モラル 人権 LHR	情報モラル 人権 LHR
体育祭	体育祭	体育祭
校外学習	校外学習	校外学習
創作体験	創作体験	創作体験
終業式	終業式	終業式
進路説明会 進路ガイダンス	進路説明会 進路ガイダンス	進路説明会 進路ガイダンス
スポーツ大会	スポーツ大会	スポーツ大会
夏祭り	夏祭り	夏祭り
映画観賞会	映画観賞会	映画観賞会
登山遠足	登山遠足	登山遠足
ビジネスマナー講座	ビジネスマナー講座	ビジネスマナー講座
文化祭 芸術祭	文化祭 芸術祭	文化祭 芸術祭
ボランティア活動	ボランティア活動	ボランティア活動
-	修学旅行	-
主権者教育（模擬選挙）	主権者教育（模擬選挙）	主権者教育（模擬選挙）
防災訓練	防災訓練	防災訓練
-	進路フェスタ	合同求人・進学相談会
感謝の会	感謝の会	感謝の会

4. 特別活動に充てる授業時数

- (1) それぞれの活動内容に対して適切な授業時数を充てるものとする。
- (2) 移動時間などは除く、実活動時間を特別活動の認定時間とする。

5. 評価

評価に関しては、生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすように、以下の通り評価の観点を定める。

- (1) よりよい生活を築くための知識・技能
- (2) 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現
- (3) 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度